

2016鳴門市ハマボウ・ヒマワリ祭りが開催

7月1日～24日

鳴門市花街道・地域づくりネットワークが、毎年夏に実施している鳴門市ハマボウ・ヒマワリ祭りが、今年度も、7月1日から24日にかけて開催されました。



木津城山公園のハマボウ

ハマボウやヒマワリの鑑賞ポイントも鳴門市内の各地区30数地点に広がってきました。

期間中は、ハマボウの交流接待所として、木津神地区ふれあい運動場と栗田仲よし公園で、ヒマワリの交流接待所として池谷地区の宝幢寺前と鳴門ウチノ海総合公園お花畑で開設されました。訪れた人たちはハマボウやヒマワリの花を鑑賞しながら、接待所の心温まるおもてなしに夏のひとときを満喫していました。

鳴門市の花でもある「ハマボウ」は、ボランティア支援の会の先達方が提唱し、裁培育成したハマボウの1万本植樹運動などの取組みにより市内各地に広がり、いまではすっかり、鳴門の夏を象徴する花として、市民に知られるようになりました。また、街道や広場、公園などで夏の到来を知らせてくれるヒマワリも鳴門市花街道・地域づくりネットワークの呼びかけもあり、毎年、鑑賞ポイントのエリアが広がりつつあり、鳴門の誇るべき市民ボランティア力の確かなあかしとなっています。



池谷松浦宅前のハマボウ



栗田仲よし公園接待所でかき氷を楽しむ人たち



ウチノ海総合公園のヒマワリ

子どもがいきいきと働くまち

うずっこタウン 開催!



うずっこタウンに集まった子どもたち

夏休みになって最初の日曜日となる7月24日、参加体験型イベント「うずっこタウン」がキョーエイ鳴門駅前店4階会場で、鳴門市内外の小学生や、鳴門第一中学ボランティア部、鳴門高校のボランティア部の生徒ら60人余名が集まり開催されました。

「うずっこタウン」は、子どもたちが、NPOやボランティア活動の専門家と共に、仕事や文化活動、遊びを体験しながら、「いきいき」と働くまちのことで。

子どもたちが、大人たちと協力して「まち」をつくることで社会貢献活動が社会でどのような役割を担っているのかを学んでもらおうと、認定NPO法人とくしま県民活動プラザ、徳島県社会福祉協議会、徳島市市民活力センターの主催により、鳴門市内では昨年引き続いて2回目の開催となりました。

参加した子どもたちは、オリエンテーションのあと、それぞれ自分が参加する団体の人たちの指導の下、熱心に体験活動に取り組みました。



中学生ボランティア部の指導でビーズストラップをつくる子どもたち

子どもたちは、初めての仕事や遊びに最初は、戸惑いながらも、時間が経つにつれ、技やコツをマスターし、自信に満ちたいきいきとした顔になっていく様子が見てとれました。

体験を終え、昼の時間は自分たちが働いて得た通貨プララで冷やしそうめんや焼きそばなどで昼食をとったり、販売ブースに並んでいるお気に入りの品物を買うなど楽しみのひとときを過ごしていました。

午後からは、5団体の参加者の体験発表があり、体験の成果をしっかりと披露していました。子どもたちにとって、社会貢献活動の一端を知る良い機会となった一日でした。



初めての「第九」をステージで披露



働いて手にしたプララ(うずっこタウン内通貨)でお買い物

コミュニティ研修会レポート



講師の立命館大学
乾 亨 教授

みんなが安心して暮らせるまちにしようやないか in 鳴門
～神戸市真野地区に学ぶまちづくりの極意～

鳴門市自治振興連合会主催による平成28年度コミュニティ研修会が6月25日、市役所共済会館3階大会議室で開催されました。

今回の研修会は、「みんなが安心して暮らせるまちにしようやないか in 鳴門～神戸市真野地区に学ぶまちづくりの極意～」と題して、立命館大学産業社会学部の乾 亨（いぬい・こう）教授を講師に招いて行われました。

研修会で乾教授は、一人ひとりが安心して機嫌よく暮らせるまちを目指していくことをまちづくりの根っこに据えるべきであり、地域住民の想いの重なるところを見つけ出し、力と知恵を出し合っただけでなく、自分もみんなも「機嫌よく暮らせるようにしていく」プロセスこそが何よりも大事であるとの考え方を提示されました。

そして、そうしたことを50年も前から実践しているまち、神戸市長田区真野地区の事例をスライドで紹介しながら、まちづくりの要諦について語ってくれました。

真野地区は、1970年代の公害反対運動から端を発した住民運動から始まり、行政に先んじて自らの力で、緑化運動、給食や入浴サービスなど、日本ではじめて、地域コミュニティの力で地域の環境整備や地域福祉に取り組み、さらに地域の将来構想をつくり実践してきており、その培われたコミュニティの力で阪神淡路大震災時の復興のまちづくりや暴力団組事務所追放を成し遂げてきたまちとして有名です。

乾教授は、真野が教えるまちづくりの極意として、弱いものを支えながら、共に自律して暮らしていこうという想いがすべて活動の基底となっていること、非常時だけに備えるまちづくりではなく日常の地域活動こそが大切であり、だからこそ「いざというとき」にも対応できること、また、長くまちづくりを続けていくためには、古くからのやり方ではあるけれど、地域でともに遊び、仲間との交流を楽しむ場づくりも取り入れる必要があることなど、真野の例を挙げて話されました。

最後にまとめとして、地域力、地域自治力には二つの物差しがあり、ひとつは地域で何事かに取り組める動員力・企画力などに関する力であり、もう一つは、地域の人たちのつばやきを集める力であること、そして、コミュニティガバナンスと言われる地域を地域で運営する力はその二つの力を兼ね備えた地域コミュニティ組織の確立が必要であると力説されました。

地域には、いろんな想い、時間、技、ちょっとした資金などの地域資源はあるものの、個々の資源は小さく、なにかしらの機会がないと表に出てこないことが多いけれども、そうした小さな地域資源をうまく束ねていく仕掛けや、活かし広げていく仕組みが必要であり、そうした受け皿組織は地域内のつながりのある地域組織にこそ期待されるとの話で講演を終えられました。

琴城流大正琴ボランティアクラブ

代表 阿部善信



施設で演奏する琴城流大正琴ボランティアクラブのみなさん

このクラブは現在16年目に入っております。
ここ数年前から各施設等からの慰問要請が多くあり、出来るだけ要望に応えたいと私たちは日々練習に精進しています。

この慰問は60数カ所の福祉関係施設、病院、デイケアハウス等に行っています。毎月の慰問、また二ヶ月・三ヶ月・半年に1回と、いろいろと慰問先によって違いますが、今まで続けてこられたのは1時間の演奏が終わり、私たちの帰る際に涙を流して見送ってくれる方々、その光景が忘れ得ぬ思い出になっております。

このボランティアクラブ会員は大正琴を習っている会員の中から演奏がある程度出来る会員を会長が任命しており、会員はこのボランティア会員になることを誇りに思っています。

また、発足以来現在まで、一番多く慰問演奏に行っている病院で160回目を記録し、毎回100名前後の方々が大正琴演奏を見て楽しんでくれております。

現在ボランティアクラブは約20名の会員で徳島市、鳴門市、板野郡、吉野川市等行っておりますが、これからも健康の許す限りボランティアの精神にのっとり頑張っていく覚悟です。

～「シニアの地域デビュー支援講座」のご紹介～

NPO法人ジョブOBネットワーク 仁尾 國雄

シニアの地域デビューで一番難しいのは「はじめの一步」。はじめの一步を後押しするキッカケづくりの場が「シニアの地域デビュー支援講座」です。

10月プログラム「活動体験ツアー」をご紹介します。



～体験ツアーを地域デビューの第一歩に繋げよう～

社会貢献活動に意欲ある市内在住のシニアのみなさん！仲間といっしょにドローン活用を体験し、私たちの住む地域の活性化につながるアイデアを考えませんか？

日時：平成28年10月8日（土）集合：午前8時45分 鳴門市役所玄関前（ATM側）

連絡先（仁尾）☎090-8691-1085

定員：20名（参加費無料）弁当代500円 要予約 申込締切：平成28年9月20日（火）

日程：体験バスツアー（現地2時間程度）午後5時帰着予定